

藝文だより

第37号

令和2年3月15日
村山市芸術文化協議会
題字／齋藤 湖舟

第55回村山市芸術祭シンボル事業

山形県華道文化協会・村山市華道連盟 合同いけばな展



甘い香りに包まれた市民会館

「村山市が次の回の場合に」と告げられた時は、いけばなを展示する規定の花台の無い事もあり、尻込みいたしました。しか



いけばな展オープニング



県内の作品が集結

令和元年度第五十五回村山市芸術祭シンボル事業「山形県華道文化協会・村山市華道連盟合同いけばな展2019」が十一月三日・四日、村山市市民会館で開催されました。村山市において「合同いけばな展」が開催されるのは十八年ぶりです。二階大会議室に村山市外の県内十四流派の四十名の作品、そして二階ホワイエには村山市民五十名の作品を展示いたしました。

山形県華道文化協会のいけばな展は、隔年毎に県都山形市と県内各地区と交互に開催しております。これは山形県華道文化協会の目的の一つに「山形県全体の華道文化の振興に関する活動を行う」があるからです。

し華道の普及発展のため、村山市華道連盟役員一同、心を合わせ二年前から開催にむけ取り組み始めました。

そして村山市芸術文化協議会より令和元年度シンボル事業としてお力添えを頂戴し、無事いけばな展を開催することができました。

来場者は二日間で千名を越え、「いけばなの美しさ、豊かさを堪能した」というお言葉を頂きました。伝統文化としての華道が、この花展をきっかけとして見直されることになったのではないかと思っております。

村山市華道連盟のいけばな展は文化の日を挟み毎年市民会館で開催しています。これからも大勢の方々に会場にお越し頂けるよう華道連盟会員一同、真摯に華道の心と技を磨いていく所存です。

(村山市華道連盟 大場ひろみ)

——芸術祭——
花、凜として優しく、そして
スキップライブに感涙……



村山市芸術文化協議会

会長 軽部 栄子

東沢公園に続く徳内道路を散策していると、花々はすでに終り、草もみじも枯れはじめた山際に、可憐な、それだいてあざやかな、紫色のりんどうの花に出合い思わず立ち止ってしまいました。

この度のシンボル事業は山形県華道文化協会・村山市華道連盟合同の花展でした。人生で楽しい時、又、深い悲しみの時もまずお花です。いつの時も花は私達に和みを与えてくれます。そして枯野のあの小さな紫色のりんどうの花のように凜とした強さからは勇気ももらいます。この度の花展、その芸術性はもちろんの事ですが、自然の花一つ一つが丁寧に活けられており、観に来て下さった多くの方々

の称賛をいただきました。芸術祭では毎年終盤の日程となるスキップのライブですがいつも大勢の観客です。十人に満たないメンバーで若い

とは言えない方々ですが、あのエネルギーはどこから出てくるのでしょうか……。心にして身体の内臓にしみるとも言えれば良いのでしょうか。やはりその場に出会った人でなければ……とてもこのペンで表す事は出来ません。素晴らしいものでした。日々の練習もあの音量ですのでご苦労されていると思います。毎回、大きな喜びと勇気ももらい、とても満たされ余韻にひたりながら帰ります。来年のライブが今から楽しみです。

参加された各々の団体は、この一年の集大成として、大変素晴らしい展示・発表でした。五十五回の節目を迎えた村山市芸術祭が有意義に終わりました事、参加された皆様とご来場いただいた皆様に感謝致します。

第7回書と刻字の作品展

——更なる意欲の高ぶりを求めて——

村山市書道会 渡邊 研山



最近、村山市の芸術文化のすばらしい発展と高い評価を耳にし、

この道に携わる一人として心から讃辞を送りたい。

これも軽部会長を中心にした会員皆様方の芸術に対する意欲とご努力の賜だと思います。やはり常に刺激を求めて意欲的に行動することによってこそ、身体的にも精神的にも若さを保つ大きい要因となっているものと思っています。

八十八歳の米寿を迎え、なお健康でいられることへの感謝を思う時、多くの方々への恩返しや自分自身の作品に対する価値観を考えた時、今が表現する一つのチャンスであると思ひ、作品発表の決意をいたしました。

作品を多くの方々にお見せするには芸術性のより高いもの、すなわち観賞的価値があり、後世に語り継がれるようなものでなければならぬと思ひ、全く身の引きしまる

思いになり、現在の自分の力では不可能ではないかと、否定的な弱気の心になってしまいました。

しかし、現状の自分の思いを書きとして表現し、素っ裸でお見せしてご批判をいただくのも、今後の製作意欲に大きい刺激になるであろうと思ひ、やっと思断しました。

十数年間妻を介護しながらメモしてきた言葉を、昨年四月から書の原稿としてまとめ、何も語らない妻の表情を見ているうち、「音」「聲」とは何であろうか、人に伝える耳に「ひびく」のは何なんだろうと思ひ、テーマを「音」にしようと思ひました。

三〇〇程になった言葉を作品としての素稿にまとめてみると、ノート一冊分にもなりこの中から更に選んで作品原稿としました。昨年十月からやっと思製作に入り、刻字を二月までに完成し、四月までに大作をまとめ、七月になってどうにか八十一の作品が完成し、九月の会期にやっと思間に合いました。

この間、後援依頼から会場準備、展示設計、目録等の印刷等々もあったが、どうか皆様にお見せすることができました。

村山市をはじめ九団体のご後援のお陰様により、多くの方々のご来場を賜り、本当に有難く心から感謝の念でいっぱいでした。皆様方のお力により村山市に五十万円を寄付することができました。

私の人生の最後の喜びとなりつつありますが、この感激を心の支えとして更に意欲と刺激をいただきながら今後の書に対する味つけをしてゆきたいと思っております。

心苦しい不躰な作品になりましたが、一つでも私の心情をくみとって戴ければ何よりの幸せと思ひながら、今後も更なるお力を賜りますようお願い致します。



美術連盟四十年を振りかえる

村山市美術連盟 原田 一裕

市美術連盟が発足して四十年を迎えた。記念事業は芸術祭美術展の冠事業に留まった。振り返ると様々な展覧会や事業が思い出される。

とりわけ、平成八年七月に実施した厚岸町との友好都市交流が印象に残る。これは市芸文協が市から助成をうけ美術連盟会員十一名が参加した事業である。

内容は、ひとつは先にコンテナで作品を送り、厚岸町役場住民ホールに大作を、道の駅コンキリエに小品を展示した事。展示会場では多くの住民が鑑賞し、あわせて茶会も催され賑わいをみせた。ふたつめは北海道ならではの風景をスケッチしてきた事。取材地は太田地区の古いサイロ、漁村の真広地区、霧多布灯台と湿原などで、帰郷してからも長くこれらをテーマに制作を続けた会員もいたほどだ。懇親会では、牡蠣などが振舞われ、互いにふる里自慢に花を咲かせた。あの港祭りの花火の音すら聞こえず。

このように、厚岸町の美術団体の協力もあり交流の目的

は達成できた。また同年秋、思いがけなく厚岸町からの訪問があり、市民会館での芸術祭美術展に共同展示し、同時に厚岸町訪問報告展を開催した。あわせて、隼の瀬・五十沢地区の民家・山寺などを案内、あいにくの深い霧の中勢力的に取材したことなど、二十年以上前の交流の体験が今も懐かしく鮮明に覚えている。これもみな徳内翁の導きのお陰と感謝している。



40周年を彩る力作が並んだ美術展

スキップスーパーライブ15thを目指して

SKIP 下河辺 敏 弥

これまでたくさんの方々の支えや協力があり、今年は十五回目のライブを行う予定です。節目にあたり、現時点で三つの企画を考えています。一つ目は、ベストアルバムCDを作ってきました。ライブで好評だった曲を中心に、バンドの魅力を伝えられるようなベスト盤をまとめたたいと考えています。二つ目は、コ

寄る年波

からす笑劇場 朝鳥 奉 公

「面白がつて年を取れ」なんて舞台の上では強がつて歌

音はその逆、年を取ると音はこと何と残酷なことか……。

体がだんだんということを開けは達者。気持ちは年を取らないのです、困ったことに……。

ですから案の定、前々回の公演「あの日は暑かった」の公演時は不注意から右足親指を骨折し、今回も年齢からくる原因不明の右足かかとの痛み

に襲われて四苦八苦しながらの開演となりました。

「何から何まで一人芸居は大変でしょう」と友人が心配してくれました。とんでもない、若い人に比べれば時間はいっぱいあるし、その時間を全部自分のペースで事を運べますからこんな贅沢なことはありませんのです、ハイ。

ですがここ最近体のあちこちから、あつちが痛い、こつちが痛いってグチばかりが聞こえてきて、良い便りが一つ



親父パワー全開！スキップスーパーライブ

2020にぜひお越しください。

も聞こえてこないです。「寄る年波」これにはどう頑張っても勝つことはできません。



視線を釘付けにしたからす笑劇場

第55回村山市芸術祭

第五十五回村山市芸術祭は、十月四日の「書の色紙展・子ども書の色紙展」を皮切りに、十二月八日の「からす笑劇場」までの約二か月、村山市民会館を主会場に開催されました。趣向をこらしたステージや展示に訪れたお客様は、思い思いに芸術の秋を満喫していました。



聴衆を魅了したフェブリエ「プロムナード・コンサート」



和の音色を奏でた三曲公演



賑わった芸術祭お茶会



温かい作品が並んだ手芸作品展



艶やかな日本舞踊公演



歓声が溢れた股旅舞踊



美しい音色を披露した大正琴演奏会



労作が並んだ人形・押絵展



個性の光る書の色紙展



立派な枝ぶりを披露したさつき盆栽展



繊細な作品並んだ暮点焼陶芸教室作品展示会



秀逸な作品が展示された書道展



ハーモニーが響いた北村山吹奏楽団「秋のコンサート」

何とかしたいが

村山吟友会 鈴木忠彦

村山吟友会が市芸文協議会に加入し芸術祭に参加するようになって今年度で三十八回目になった。

振り返ってみますと全国で初めて東沢公園に「吟魂碑」が建立され、その祝いで有名な「榊原舞踊団」の公演が市民会館で開催されたりした昭和五十五〜六十年頃、吟を愛する方々の努力で村山吟友会が発足し、昭和五十七年から市芸術祭にも参加するようになったのでした。

この頃の吟詠大会は市民会館の大ホールに多くの会員が集まって盛大に開かれたものでした。それが今では会員の減少で小ホールを会場に六十名ほどの会員で大会を運営している状況になってしまいました。

会員の減少は今でも少しずつ進んでおり、高齢者が多いのと入会者がなかなかいないことが減少に拍車をかけているのです。更に「詩吟は難しく馴染めない」と言う人が多く余程興味の有る人でないと会員にはなってくれないしなっても定年退職後と言う人が多いです。



凛とした歌声が響いた吟詠大会

吟友会を存続し、伝統文化を伝えて行くためにも、この現状を何とか打開して前に進まなければと思う気持ちも焦るばかりで、一向に対策が浮かんでこない。私も高齢の上に浅学非才の身、そう簡単に解決策が考えつかないことは分かっているが、妙案がないものかと悩む毎日である。詩吟を始めたころはただ上達したい、趣味として最後まで続けたい、そんな一念で今日まで来たがこの様な問題に直面しようとは。吟友会だけの問題なのか、協議会加盟の団体はどうなのか、そんな思いが頭をよぎる。

初心の稽古、少しずつ

村山市謡曲連盟 品川晶兒



幽玄の世界 謡曲公演

「謡(うたい)」とは「能」の声楽(言葉・台詞)にあたる部分のことです。『よくわかる謡の方』の巻頭に、「謡は、単なる娯楽ではなく、ある意味で人生の抛り所として大切な教養的部分が含まれています。単純な楽しさではなく、深い楽しみにつながっていきくものなのです。謡本には節の符号は書いてありますが、謡い方までは教えてくれませ

ん。符号より、まずは謡い方を覚えなさいといけません。子供のときは丸暗記してしまいますが、大人になると謡本を頼りにし過ぎることがあります。謡というのは究極的にいえば声だけで演技をするということですから。能の動きをきちつと頭の中に置いてそれをもとに幅のある立体的な謡を理想として、稽古に励んでください。」とありますが、小謡は一曲二分、お風呂でも信号待ちでも謡えます。☺

響く、広がる、三味線・民謡の輪

三味線・民謡 正徳会 三山徳継

私達「三味線・民謡 正徳会」は、会主 三山正徳を中心として「輪」をモットーに県内外各地で演奏活動を行っています。津軽三味線の演奏を追求する事はもちろんの事、歌でも様々なジャンルに出場し又その伴奏技術を磨くことで三味線・民謡のすばらしさを継承・保存・普及発展させる事を目的に活動しています。テレビ等のメディアでも様々な楽器とのセッションを含め耳にする機会が増えてきました。

それは、津軽三味線が伴奏用の楽器としてだけでなく単体でもその音色を楽しめるという認識が広がって来ていると言えます。しかし、その音を生で聞いた事の無い方がまだまだおられると思います。津軽三味線の生の迫力、民謡のすばらしさを少しでも多くの方々に知っていただき、津軽三味線・民謡の普及・発展に貢献できるように、今年も精進してまいりますので皆様のご支援・ご指導よろしくおねがいします。



会場と一体になった民謡舞踊フェスティバル

仲間と舞台を作る楽しさ

劇団赤ひげ 浅野目 瑞季

劇団赤ひげに入団して四回
目の定期公演でした。右も左
もわからないまま舞台上に上
がった三年前に比べると劇団
のメンバーにも馴染んできた
ように思います。一人の努力
だけでは良い舞台は作れない
ということを年々感じていま
すが、今年度の公演ではより
強く感じました。

稽古の合間の時間にこうし
たらもっと面白くなるんじや
ないかとか、次の通しではこ
ういう動きを試してみようと

か、役者同士で話し合うこと
で一人では考えられないよう
な面白い動きが生まれること
もあります。時にはやりすぎ
てしまつて元に戻したことも
あり、本番ギリギリまで新し
いことを試して良い舞台に仕
上がります。また、誰かが失
敗しても他の役者がカバーし、
それが時に面白い演出になる
こともあります。それが赤ひ
げの良さだと私は思います。
皆さんも赤ひげで私たちと
一緒に舞台を作りませんか。



感動を呼んだ「レンタルファミリー」公演

赤ひげは家族のような暖かい
劇団です。ので、楽しく充実し
た日々をすごせるはずです。

しばらくぶりのSL

村山フォトクラブ 堀 澄雄

本年はクラブ結成三十五周
年の節目に、平成九年から続
いている厚岸映像集団「光
風」との交流事業として、五
年ぶりの再会にと北海道撮影
旅行の計画を進めてきたが、
訳あって次年度へ延期するこ
とになった。

その代わり、釜石線を走る
「SL銀河」を撮ろうと、遠
野市宮守へ行くことになった。
一昨年訪問したが、台風の影
響で運行が中止となり、撮る
ことができなかったのだ。

九月二十一日の朝六時半。
村山市役所前を出発した私た
ちは、途中から高速道路を利用
し、九時過ぎに目的地「道の
駅みやもり」に着いた。カ
メラと三脚を持ち歩くこと一
二分、撮影ポイントはなんと
目の前、知らなかった……。

私たちが着いたころには、既
に準備をして待っている人が
いた。私たちも早速三脚を立て
準備に取り掛かる。

時間までに往復二本の列車
が通過したので、試し撮りを
することができた。近くに
いた人と話すと、その人は秋田

県大仙市から来たそうで、中
には関東方面から撮影にくる
人もいるらしい。ふと周りを
見渡せば階段に座っている人、
高台で待っている人、川に
入っている人など、百人近く
の観客が集まっていた。

十一時四十分過ぎ。森の陰
から煙が見え、機関車の音が
聞こえてくると緊張してくる。
見えはじめた瞬間、一斉に
シャッターが鳴り響いた。時
間にして十秒から二十秒だろ
うか、アツという間に終わっ
てしまった。私たちは興奮そ
のままに帰路についた。



山河を走るSL銀河

芸術文化功労者を表彰



村山市芸術祭開幕式の席上、令和元年度芸術文化功労者が表彰されました。誠にありがとうございます。(10月25日市民会館)

【感謝状】

石澤 啓至 (楯岡 杉島諏訪太鼓保存会)
後藤 敬子 (富本 大正琴連盟)
森谷 明代 (楯岡 三味線・民謡 正徳会)
大山 スエ (楯岡 三味線・民謡 正徳会)
齋藤 享子 (東根市 社会音楽連盟)

【栄光章】

青柳 清長 (戸沢 書道会)
|| 読売書法展 入選
|| 山形県民ふれあい書道展 金澤忠雄記念賞
|| 山形県総合書道展 山形市長賞
|| 佐藤 坡有 (楯岡 書道会)
|| 板垣 霜月 (楯岡 書道会)

【功労章】

原田 一裕 (楯岡 美術連盟)
星川 英子 (楯岡 三味線・民謡 正徳会)

